



## すべての人に“我が家”と呼べる場所を

初版 2022年  
発行者 国際連合人間居住計画  
(国連ハビタット)  
著作権 © 国連ハビタット, 2022



本書は国連ハビタット福岡本部（アジア太平洋担当）（以下、福岡本部）により編集・作成され、福岡本部の設立25周年記念に合わせて2022年7月26日に福岡で発行されました。

本書は、国連ハビタットが掲げる2020-2023 戦略計画の下、2020年および2021年の実施プログラムとその成果を中心に、アジア太平洋地域におけるプログラムの活動を表したものです。

より正確なデータや情報については、[unhabitat.org](http://unhabitat.org)または[fukuoka.unhabitat.org](http://fukuoka.unhabitat.org)の関連レポートをご参照ください。

本書は英語版と日本語版を同時に公開しました。

本書の作成に際し、国連ハビタット福岡本部は福岡と各国の事務所で貢献してくれた多くの職員・関係者に謝意を表します。特に、インターンチームのアン・カオ、ソティアロット・プー、土田亮、ニコル・ヴァイブレヒトに感謝します。

装丁・レイアウト：アンドリュー・オンドゥー (国連ハビタット)

本書に採用された名称および地図上の資料は、国、領土、都市、またはその管轄当局に関して、あるいは国境または境界の画定に関して、国連事務局または国連ハビタットのいかなる意見の表明を意味するものではありません。

副次的権利を含む権利およびライセンスに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

国際連合人間居住計画 (国連ハビタット)  
福岡本部 (アジア太平洋担当)  
〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡 8階  
<https://unhabitat.org/>, <https://fukuoka.unhabitat.org/habitat.fukuoka@un.org>

画像クレジット: 本書に掲載されている画像はすべて著作権により保護されています。

HS Number: HS/015/22

### 画像およびクレジットのリスト

写真のクレジットが明示されていない場合、著作権は国連ハビタットに帰属します。

- 1ページ: ヤンゴンのインフォーマルな居住区にある最も脆弱な貧困コミュニティのためのヨーマ住宅
- 3ページ (左上): マイムナー・モハメド・シャリフ  
国連ハビタット事務局長・国連事務次長
- 3ページ (左下  
1): ヤンゴン市ダゴンセイカン・タウンシップにコミュニティ手洗い場を提供  
(クレジット: ウィン・フライン・トゥン)
- 3ページ (左下 2): 受益者の投票の様子
- 3ページ  
(左下 3): プラスチックから利益へ変える取り組み。マニラのコミュニティ団体3Ws (Women Waste Warriors) は、ペットボトルを都市型ガーデニングポットにリサイクルし、適切な廃棄物管理を促進しながら家族を支援する生計手段の一環として取り組んでいます。
- 3ページ  
(左下 4): コミュニティ参加型プロセスによる遺産復興計画を熱心に観察する高齢市民。ネパール、マハラクシュミのシディプールにて。カトマンズ渓谷の12の遺産集落で同様の計画が作成されています。(クレジット: ニュートン・マハラジャン・ルマンティ)
- 4ページ  
(左上): 国連ハビタットの技術チームによる現地建設業者と受益者へのトレーニング後、ショーランズ地区の自宅の石工工事を行う一家。(クレジット: A. アナンズ)
- 4ページ  
(右上): 住宅受益者であるカリムトゥ氏は、自分の土地で小規模な有機野菜栽培に取り組んでいます。2019年にヌワラエリヤの農業局が実施したコンテストで、ディヤガマ西地域の最優秀農家に選ばれました。  
(クレジット: M. カジエンティラン)

- 4ページ

(右下)：ハノイ・クリエイティブシティのイラスト（クレジット：ベトナムにおける国連ハビタット/トゥ・ナ）

- 5ページ(右上)：2019年1月3日ワークショップの様様
- 5ページ(右下)：住宅総局 総局長による住宅建設の監視と指導
- 7ページ

(上部)：2019年9月東ティモール・ディリで起きた、自治体管轄の廃棄物処理場での火災

- 7ページ(中央・左)：松藤康司 名誉教授(福岡)
- 7ページ(中央・右)：ティエンビン最終処分場でのガス抜管設置工事
- 8ページ(右上)：クリーンアンドグリーンシティ(CGC)事業の女性労働者
- 8ページ(左下)：ケップ州のマングローブの状況  
(クレジット：カンボジアにおける国連ハビタット)
- 8ページ(右下)：住宅総局 総局長による住宅建設のモニタリングと指導
- 9ページ

(右上)：プランナーが中心となって、小学生が自分たちの地域をデザインするためのグループディスカッションを行いました。(クレジット：

武漢市土地利用・都市空間計画研究センター、以下WLSP)

写っている人：WLSPのプランナーとワンソンクァン小学校の小学生。

補足：2021年11月5日、中国・武漢市で「子ども参加型コミュニティ再生ワークショップ」が開催されました。このワークショップは、国連ハビタットとWLSPによって開催され、

20人以上の小学生が積極的にワークショップに参加しました。彼らは自分たちの理想のコミュニティを再構築するように導かれました。

- 9ページ(左下)：ラオス南部アッタプー県における365日24時間稼働の地域密着型小規模給水システム
- 9ページ(右下)：トラクターで農場に向かう新築住宅の住人
- 10ページ(左上)：気候変動脆弱性評価に参加するコミュニティの人々
- 10ページ(中央・上)：浸出水集排水管の設置
- 10ページ(右上)：インフォーマルな居住地におけるCOVID-19蔓延防止のための石鹸を使った手洗い場の設置
- 10ページ

(左下)：パキスタン・ノウシェラにて。度重なる洪水により、被災地では人命が失われ、インフラが破壊され、多くの飲料水インフラが使用不能となりました。

- 10ページ(右下)：災害時に効果的に対応できるように、学校の子もたちや教師の能力や意識の向上に努めています。
- 11ページ(左上)：所有権利の強化。マラウィ再建プロジェクトにおけるピープルズプロセスの一環として、ホームパートナーは恒久的な住宅建設の様々な段階（特に家の設計、建設、モニタリング）に参加しています。
- 11ページ(右上)：マラウィにて。ハディア村を見つめる家族。
- 11ページ(左下)：ベトナム・トラヴィン省の海岸浸食の様子
- 11ページ(右下)：ハノイの都市開発（クレジット：グエン・ラム・ブック）
- 12ページ(上部)：ホニアラ・ククム漁村
- 12ページ(下部)：ヴニーヴィ居住地区での壁画  
(クレジット：カトリーナ・ドレイクフォード)
- 13ページ(左上)：（事業実施前）カブール 地区2 (CGC)

- 13ページ(右上)：女性のエンパワメント。コミュニティ再建に積極的な役割を果たした女性たちは、マラウイのシェルターと生活の再建プロジェクトの能力開発イニシアチブを通じて組織された住宅所有者協会のリーダーとして活躍しました。
- 13ページ(左下)：(事業実施後) カブール 地区2 (CGC)
- 13ページ(右下)：  
カブール市10区でのプロジェクト開始式に臨むCFAチームリーダーでエンジニアのマリアム・アジジ氏
- 14ページ  
(左上)：イングリッド・マカバレ氏、オルモック市環境・天然資源局廃棄物管理責任者
- 14ページ  
(左下)：再建されたドカピン・ファルチャ（地域の憩いの場）に高齢者が集まる、ネパール・ラリトプルでのブンガマティの光景
- 15ページ  
(上部)：ヤンゴンのインフォーマル居住区における社会経済状況および住宅事情の調査
- 15ページ(右下)：ナズ・グル、市民社会運動家
- 16ページ(上部)：アクロス福岡(クレジット：アクロス福岡)